

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

発達相談等充実事業

事業の経過・背景・課題

町立小中学校に在籍する教員で発達相談や知能検査WISC-IVを実施できる人材が、1名しかいないため、新規相談時及び特別支援学級に在籍する児童生徒に対して、実施できる回数に制約があり、実態に即した学校現場での対応が出来ず、検査の待機児童が出ている。

これを解消するために、学校現場や保護者からは町単独での有資格者の確保の強い要望があがっている。

取組内容

交付実績額： 243 千円

- ・町立小中学校に在籍する児童生徒が必要とする発達検査・発達相談の実施に向け、新たに有資格者を確保し、これまで検査に要した期間の短縮を図ることで、早期に児童生徒一人一人に応じた適切な就学支援や教育的支援につなげる
- ・「新版K式発達検査2020」の検査器具を新規購入し、児童生徒の発達状況に応じた検査が実施できるようになったことによって、就学や教育的支援につなげる。



〔WISC-IV（ウィスク・フォー）〕

5歳0か月から16歳11か月の子どもを対象とし、世界的に広く利用されている代表的な知能検査のひとつ

〔新版K式発達検査〕

子どもの心身の発達状態を多面的に評価するための心理検査

1951年に京都市児童院で開発され、改訂を重ねて2020年に「新版K式発達検査2020」が刊行

事業の成果・今後の展望等

大山崎町立小・中学校が必要とする20名の生徒に発達検査を実施し、その検査結果を保護者と学校が共通理解することにより、児童生徒の就学や教育的支援の推進を図ることができた。

従来のWISC-IV検査器具に加え、令和6年度に「新版K式発達検査2020」の検査器具を新規購入したことで、児童生徒の発達状況に応じた検査が実施できるようになり、就学や教育的支援の一層の推進を目指す。

令和7年度は、検査員の更なる確保に努め、知能検査待機児童生徒数の更なる減少を目指し、児童生徒にとってより適切な就学支援に努める。

問い合わせ先

大山崎町教育委員会学校教育課（075-956-2101）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

不登校児童生徒等支援相談事業

事業の経過・背景・課題

不登校児童生徒の出現率は、国・府ともに増加しており、本町においても同様である。不登校の未然防止やいじめの早期発見等のためには、ＳＣの役割が重要となっている。

取組内容

交付実績額： 754 千円

- ・町立小中学校において、増加する個々の相談支援に対応する体制を構築し、不登校の未然防止や不登校となった児童生徒の学校復帰を含めた適切な支援を実施



事業の成果・今後の展望等

- ・スクールカウンセラーの配置時間数の増により、悩みを抱えた児童生徒・保護者に対して、より丁寧な相談活動を行うことができ、不登校の未然防止や不登校になった児童生徒の学校復帰を含めた適切な支援につなげることができた。
- ・令和６年度の不登校の出現率が低下した学校があるなど、大きな効果があったと評価しているところではあるが、個々の児童生徒の特性や状況は複雑化しており、今後は小中学校ともに再び増加する可能性もある。
- ・個々の児童生徒の状況に応じて、学校復帰だけを求めるのではなく、社会的自立に向けた支援も必要となることから、引き続き、スクールカウンセラーの相談活動をより充実化させ、児童生徒、保護者のみならず学校に対する支援も強化していく。

問い合わせ先

大山崎町教育委員会学校教育課（075-956-2101）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

採点システム導入事業

事業の経過・背景・課題

中学校教員の労働環境は部活指導等もあることから長時間労働になっており、働き方改革は急務となっている。働き方改革を進めるうえで、本来、教員が対応すべき授業の準備や生徒指導等の時間の確保するためには、事務作業や雑務作業は効率的に行う必要があるが、テスト採点については紙媒体を1枚1枚手作業で採点しており教員の大きな負担となっている。

取組内容

交付実績額： 46 千円

- ・これまで手作業で行っていたテストの採点を電子化し、設問毎に一括で採点（一部自動採点）を行い、2色（赤黒）印刷で返却する。
- ・採点結果をデータ化し分析することで、個々の課題の把握や学力向上に向けた指導に繋げていくとともにGoogleクラスルームと連携させ、電子データでの返却を行う。

⇒教職員の業務が効率化されることで生徒と向き合う時間を確保



事業の成果・今後の展望等

- ・中間テスト等の採点に要する時間を縮減することで、授業準備や生徒指導など、子どもたちと向き合う時間を確保することができた。
- ・更なる活用を進め、採点時間の短縮を図り、教員が生徒と関わる時間の更なる確保につなげるとともに、採点結果のデータ化及び分析、電子データでの返却等についても適宜進めていく。

問い合わせ先

大山崎町教育委員会学校教育課（075-956-2101）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

適応指導教室教育相談支援員配置事業

事業の経過・背景・課題

適応指導教室（たけのこ教室）では、運営会議を通じて方針や指導内容等を協議し、教育相談員・指導員が共通認識のもと運営しており、児童生徒や保護者との面談は定期的・計画的に複数体制で実施している。

令和6年度は、不登校や教育相談の増加、多様な通室状況への対応により複数体制が不可欠であり、個別対応のための専門的知識を有する相談員の時間確保が課題となっている。

取組内容

交付実績額： 1,009 千円

- ・個の実態に応じた学習や相談活動やカウンセリングを行う。
- ・定期的に保護者の面談やカウンセリングを行い、連携を密にし指導を進める。
- ・教育相談員の専門性を生かし、定期的に連絡会やケース会議を開催し、各学校における不登校対応の充実を図る。

適応指導教室 開室112日

開設日：概ね週3回（火・水・金）（※年度当初及び長期休暇期間中を除く）

児童面談：年3回

カウンセリング：適宜

運営会議、学校連絡会：年4回

ケース会議：3回程度

事業の成果・今後の展望等

通室する児童生徒は、様々な学習や活動を通じてコミュニケーション力や自己表現力を高めることができた。また、相談員による個別面談や学校との連携、保護者カウンセリングにより、進路実現や適切な支援につなげることができた。さらに、運営会議や学校連絡会、必要に応じたケース会議では情報共有と支援策の検討を行い、連携体制を強化することができた。こうした取組を踏まえ、今後は児童生徒が自己決定や自己表現を行える場をさらに設けるとともに、アセスメントシートを活用して相談員が専門的見地から支援策を提案し、不登校支援の更なる充実を図る。

問い合わせ先

大山崎町教育委員会学校教育課（075-956-2101）

大山崎町

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

英語力充実事業

事業の経過・背景・課題

令和4年度公立中学校における英語教育実施状況調査によると、本町中学3年生における英語検定3級相当の生徒割合は46.0%と全国平均を下回っている状況にある。

本町では、「大山崎町英語推進教育計画」に基づく英語学習の充実をはじめ、国際理解など、グローバル化に対応できる児童生徒の育成に取り組んでいるが、コミュニケーション能力の基盤となる英語力の充実と目標意識の明確化を図ることを目的に、中学3年生全員に英語技能検定にチャレンジする機会を創出することで、英語力の底上げに繋げる。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

中学3年生全員に対して、英語技能検定にチャレンジする機会を創出（年1回）
※受験生であることに配慮し、受験方法を限定せず英語検定S-CBTの受検も対象とする。

事業の成果・今後の展望等

- ・目標意識の明確化を図ることで、学習意欲を高めることができ、英語力の強化につながった。
- ・次年度も本事業を引き続き実施するとともに、英語学習の充実に努めていく。

問い合わせ先

大山崎町教育委員会学校教育課（075-956-2101）